

実験・実習技術研究会 2023 での Q&A

Q1：他大学等でもこのツールを使用しているですか。

A1：学外に公開しているツールのため、ご利用可能です。

Q2：化学反応によって生成した危険・有害性未知の物質についてもリスク評価できますか。

A2：リスク評価できるのは、CAS No.が分かっており、かつ政府による GHS 分類結果のある物質です。

Q3：研究室では薄手の使い捨てニトリルゴム手袋を使っており、このツールでは利用不可になるようですが、厚手の手袋は作業性が悪く使えません。

A3：このツールでは、溶剤等への浸漬作業に使用できるかどうか判定しています。多くの大学で使用している薄手のニトリルゴム手袋は、有機溶剤に対する破過時間が極めて短いため浸漬作業には使用できません。浸漬作業以外の作業で予防的に着用し、薬品が付着した場合は速やかに脱着・交換するようにして下さい。

Q4：国内の大学を対象としたこのツールの利用率はどのくらいですか。

A4：そのような集計は行っていませんが、多くの企業・教育研究機関が利用されています。

Q5：リスク評価手法が複数ありますが、どのように使い分けますか。

A5：まずは少量・低頻度向け手法でリスク評価を行い、明らかに実状に合わない評価結果となる場合は、準精細手法や精細手法を使って、より詳細な実験環境・条件で評価されることをお勧めします。